



INDEX

- ・ 令和7年度鶏卵生産者経営安定対策事業の積立金・協力金等の単価について 1
- ・ 畜産現場での効果的な消毒について～公益社団法人畜産技術協会より～ 2-3
- ・ 業務担当窓口の変更について 4
- ・ 「飼料米検査」の令和6年度実績 5-6
- ・ 冊子発刊のご紹介～完全食・たまごの健康パワーについて～ 7
- ・ 統計データ 8
- ・ 協会活動報告 9

令和7年度鶏卵生産者経営安定対策事業の積立金・協力金等の単価について

令和7年度の鶏卵生産者経営安定対策事業の生産者負担金については、令和6年度第7回理事会の決議及び農林水産省畜産局長の承認を得て、下記のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

1. 令和7年度鶏卵生産者経営安定対策事業の積立金・協力金等単価

積立金	4.01円/kg
協力金	0.61円/kg
手数料	0.06円/kg
抛出金	0.01円/kg
合計	4.69円/kg

2. 令和7年度高卵価月の追加積立発動基準及び追加積立金単価

(1) 追加積立発動基準

$$\underline{350円} = \text{令和7年度の補填基準価格 (230円)} \\ + \text{追加額 (120円)}$$

(2) 追加積立金単価

月毎標準取引価格	積立金単価
350円以上 355円未満	1円/kg
355円以上 360円未満	2円/kg
360円以上 365円未満	3円/kg
365円以上 370円未満	4円/kg
370円以上	5円/kg

【お問い合わせ】

業務第2部 Tel:03-3297-5515



畜産現場での効果的な消毒について ～公益社団法人 畜産技術協会より～

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生は、令和4年シーズンに匹敵する事態となっておりますが、「畜産現場での効果的な消毒」について、公益社団法人畜産技術協会から情報提供がありましたのでお知らせいたします。

主な内容は、①逆性石鹼の特性と注意点、②逆性石鹼とマイクロ水酸化カルシウムの混合液による消毒法、③車両消毒設備、④長靴交換の実施、⑤手指消毒等です。詳しくは以下の URL をご覧ください。

https://jlta.jp/test/wp-content/uploads/2024/04/%E5%8D%B0%E5%88%B7%E7%89%88_R6%E5%B9%B4%E6%9C%88_%E5%8A%B9%E6%9E%9C%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%B6%88%E6%AF%92%E7%94%A8_%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95.pdf

5. 手指消毒

基本は、長靴交換と同様に手袋の着用を推奨します。消毒液で皮膚からの病原体の除去は困難ですが、ビニールなど無機物からの除去は容易です。
なお、直接手指消毒を行う際にも、逆性石鹼とマイクロ水酸化カルシウムの混合液を用いることができます。アルコールよりも殺微生物スペクトルが広いのが特徴です。医薬部外品としても市販されていますので、お近くの取扱店等にお問い合わせください。



6. 野生動物対策

バイオセキュリティには、物理的障壁と化学的障壁（消毒）とがあります。消毒だけに頼らず、農場内に野生動物が侵入しないよう、農場周辺の樹木を伐採する、畜舎周辺をコンクリートなどで覆う、畜舎の外部との開口部には網を張る、壁の穴は補修するなど、物理的バリア（物理的障壁）を確実にする必要があります。



マイクロMIX法の効果は東京農工大学及び北里大学における研究成果に基づいて示しております。

具体的なデータなど、詳細については、公益社団法人中央畜産会のホームページにある「畜産分野の消毒ハンドブック」(2019年)、「畜産農場バイオセキュリティ強化マニュアル」(2021年)をご参照ください。PDFをダウンロードできます。

不明な点や改善点等の情報は、公益社団法人 畜産技術協会にお問い合わせください。



畜産技術協会ホームページで動画等も公開しています。



令和6年度 農場消毒強化技術実用化推進事業 公益社団法人畜産技術協会

畜産現場での効果的な消毒

日ごろから畜産現場で実施される消毒体制の強化

マイクロMIX法 — 逆性石鹼とマイクロ水酸化カルシウムの混合液による消毒 — “マイクロMIX法”とは、本消毒法の普及に向け新たに作った名称です。

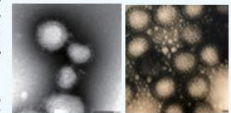
本消毒法を実践される際の留意点

- 畜産現場では、伝染病の発生予防、生産性の向上等、様々な目的で消毒が実施されていますが、消毒は温度、有機物の存在、pH など様々な要因により影響を受けることが知られています。
- 本資料では逆性石鹼と粒子径が小さいマイクロ水酸化カルシウムの混合使用による“相乗効果”により、消毒を強化する技術である“マイクロMIX法”を紹介します。
- マイクロMIX法は試験レベルでの効果が検証され、さらに生産現場での実用化に向けて技術的検証が実施されています。本資料を参考に各生産現場での判断・責任で実施していただくようお願いいたします。

1. 逆性石鹼の特性と注意点

逆性石鹼は、多くの畜産農場で利用されています。対象微生物に対し電気的に結合するため、低濃度でも高い殺菌・殺ウイルス効果が得られ、毒性や刺激性が低いため畜体・鶏体への噴霧や放水消毒にも利用可能であり、金属腐食性も少ないので車両消毒等にも良く用いられています。しかし、逆性石鹼には以下の3つの弱点があります。

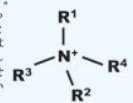
- ①低温下で効果が減弱
 - ②有機物存在下で効果が減弱
 - ③効果が出る病原体に限られる（エンベロープ*のないウイルスには効果がない）
- これらの弱点を補うため、逆性石鹼と粒子径の小さい水酸化カルシウム（以下、マイクロ水酸化カルシウム：平均粒子径 10 μm）の混合液での消毒法（マイクロMIX法）を用いることで、消毒効果を増強・拡大することが可能です。



*エンベロープ：ウイルスの外部表面にある宿主細胞由来の細胞膜（脂質二重層）。ウイルスには、タンパク質の殻を更にこのエンベロープが覆っている「エンベロープウイルス」とタンパク質の殻だけでエンベロープを有さない「ノンエンベロープウイルス」の2種類があります。

※逆性石鹼の作用機

第四級アンモニウム塩（右の図）を主成分とする製品が市販されています。プラスに帯電（NR4+）した陽性界面活性剤であるため、一般に洗浄に用いられる石鹼（マイナスに帯電した界面活性剤）の逆というところで、逆性石鹼と呼ばれています。主成分により、大きく3つに分れますが、作用機序は共通しており、プラスに帯電している逆性石鹼の主成分がマイナスに帯電している細菌等のタンパク質やセルロースに吸着し、タンパク質等を変質させて不活化（殺菌）します。単独使用ではウイルスに対して十分な効果がないとされていますが、畜産現場では以前から主に単独で利用されています。





2. 逆性石鹼とマイクロ水酸化カルシウムの混合液による消毒法（マイクロMIX法）

逆性石鹼にマイクロ水酸化カルシウムを飽和液（0.17%）となるように添加することで、有機物存在下や低温下でも逆性石鹼の殺微生物効果が得られ（「相乗効果」**）、さらにノンエンペロープウイルスに対しても殺ウイルス効果が認められるようになります（「広域スペクトル化」***）。

** カルシウムイオン（Ca²⁺）と水酸基（OH⁻）がエンペロープに穴をあけ、逆性石鹼がエンペロープに入りやすくすることで相乗効果が認められます。

*** ノンエンペロープウイルスに対しては、マイクロ水酸化カルシウムの強アルカリが作用しています。

混合液の作り方：資材	夏場 1000 倍希釈	秋から春 500 倍希釈
逆性石鹼	200ml	400ml
マイクロ水酸化カルシウム	400g	400g
水	200 リットル	200 リットル

（参考）500ml のプラスチックビーカーを用い、マイクロ水酸化カルシウム（粉）を 360ml くらいの線まで入れると、200g となります。水 100 リットルに対して 200g（0.2%）必要です。

夏場は、1000 倍希釈の逆性石鹼液に 0.2% になるようにマイクロ水酸化カルシウムを加え、よく混合します。気温が低くなる時期（15℃を下回る季節）には、500 倍希釈の逆性石鹼に 0.2% になるようにマイクロ水酸化カルシウムを添加し、棒などで良く混合します。多少白い沈殿が残りますので、動力噴霧器に大きな塊を吸い込まないよう、取り込み口にフィルター、ストレイナーなどを取り付ける必要があります。



なお、一般に広く用いられている消石灰の場合、粒子径が大きいため（150 μm 以下）、逆性石鹼との相乗効果は認められないので注意が必要です。

混合液での消毒法（マイクロMIX法）の具体的な使用場所として、畜舎、衛生管理区域内に入る車両（飼料搬入、薬品搬入、家畜の搬入・搬出、生乳搬出、機材の搬入・搬出）、車両のフロアマット、車内、車両荷台、輸送かご、種卵トレイ、孵化場のセッターやハッチャー、種卵消毒、踏み込み消毒槽などがあります。感染症発生時の“消毒ポイント”での車両消毒にも効果的です。従来、逆性石鹼を用いていた消毒場所にマイクロ水酸化カルシウムを添加した“混合液”を用いることで、逆性石鹼の働きが弱くなる低温環境下・有機物存在下や逆性石鹼が苦手とするエンペロープの無いウイルスなどを含む幅広い病原体の不活化が期待できます。

逆性石鹼と同様に、普通石鹼や陰イオン系の薬剤と混ぜると中和して効果がなくなるので注意して下さい。

3. 車両消毒設備

“特定家畜伝染病防疫指針”にもあるように車両消毒には、「車体を腐食しにくい“逆性石鹼”が推奨されています。高圧洗浄機（動力噴霧器）を用いて消毒しましょう。タイヤや車体の下に付着している泥などを落とせるぐらいの勢いでないと、車体やタイヤにしっかりと付着した病原体を不活化することは困難です。

高圧洗浄時の消毒液にも、上記の混合液による消毒（マイクロMIX法）を用いるのが効果的です。

なお、逆性石鹼については、自動濃度調整装置（流量比例式混入器）がありますが、水酸化カルシウムの粉を自動で混合することは現時点では難しく、左ページの表のように 200 リットル単位、500 リットル単位（量は使用の頻度により調整してください）で作製する必要があります。調整した液体は密封の状態では室温で 1 か月以上保管しても効力の低下は認められないので、作り置きが可能です。実際の農場では 1 週間くらいで使い切ってください。



4. 長靴交換の実施

飼養衛生管理基準には、「養豚場と養鶏場においては、畜舎（鶏舎）ごとの専用の靴の設置と使用」が定められています。踏み込み消毒槽で長靴に付着した病原体を不活化するには、混合液を使用しても 3 分以上を要します。このため、長靴の交換場所を設置し、畜舎用の長靴に履き替えた上で、畜舎での作業後は、水とブラシで長靴に付着した糞便などを洗い落とし、消毒液を入れた踏み込み消毒槽に次に使うまで入れておくこと（漬け置き）が大事です。

牛の農場で長靴交換と漬け置き長靴の利用を実施したところ、子牛の死亡率と下痢発生率が有意に低下し、汚染指標病原体（ロタウイルス、コロナウイルス、エンテロウイルス）検出率が有意に低下したとの報告があります。





業務担当窓口の変更について

当協会の組織体制変更に伴い、令和7年1月より業務第3部が実施していた業務を業務第1部が担当していましたが、令和7年4月以降は、表-1の通り業務第1部及び業務第2部において担当いたしますので、お知らせいたします。

表-1 旧業務第3部担当事業の令和7年度以降の担当窓口

事業分類	事業名	事業内容	担当
公益目的事業	鶏卵需給動向等の情報提供事業	①地域協議会、県養鶏協会に配布し、同団体が情報を発信 ②日本養鶏協会の地域協議会等への出席 ③AW地域説明会運営 等	業務第1部
	国産鶏卵に関する普及啓発事業	①各道府県養鶏協会に配布し、同団体が「普及啓発活動」を実施	
安定対策事業	消費拡大推進事業	「消費拡大活動」として、 ①卵知識普及会議運営(いいたまごの日含む) ②消費拡大・普及啓発イベント開催 ③消費拡大・普及啓発活動 ④消費拡大・普及啓発に係る冊子作製・配布 ⑤消費拡大・普及啓発地域イベント協賛 等	業務第2部

【お問い合わせ】

公益目的事業：業務第1部 Tel:03-3297-5515

安定対策事業：業務第2部 Tel:03-3297-5515



「飼料米検査」の令和6年度実績

輸入原料を元とする飼料価格の高騰が以前の水準まで回復する気配を見せない情勢の中、国内産の穀物を利活用する飼料米の重要性は非常に高いといえます。当協会は、食料自給率の維持向上のため飼料米等の生産拡大を推進する国の方針に基づき、飼料米を利活用した鶏卵の生産拡大に資するため、本事業に積極的に取り組んでいます。

令和6年度（R6年8月～R7年1月）は、13県、209名の稲作生産者より検査請求があり、計368件、6,285トンにのぼる飼料米の検査が実施されました。

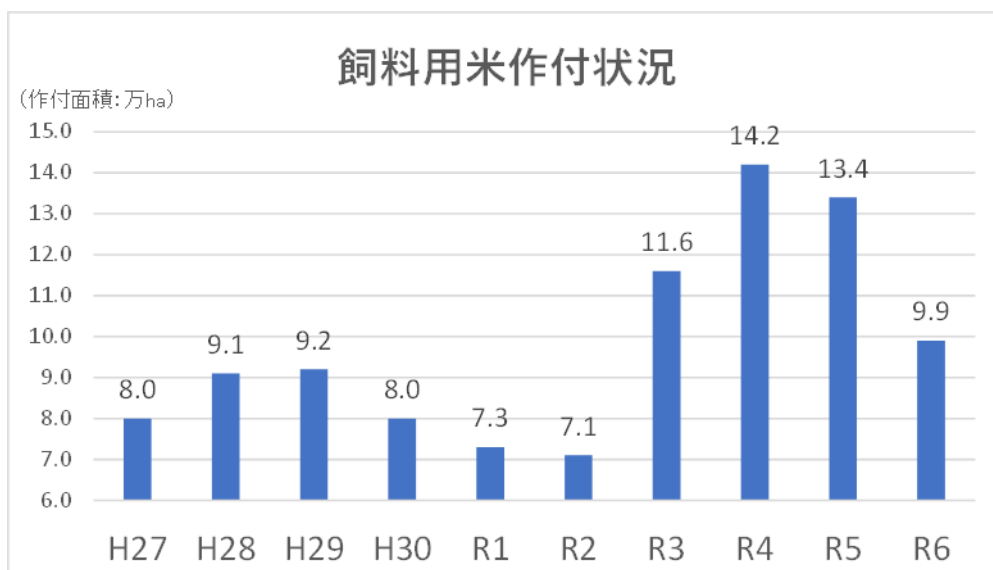
生育期の異常気象等により全国の飼料米作付面積は減少しました（図1）。協会所属の検査員が実施した検査重量も、全国の傾向と同様に減少する結果となりました。

（図2）が検査件数・重量の推移です。

検査件数は検査開始年度より一貫して減少を続けていましたが、R3年度に増加に転じ、その後ほぼ同水準を維持しています。また、検査重量はR3年度以降増加を続けておりましたが、今年度は全国的な傾向の影響を受ける結果となりました。

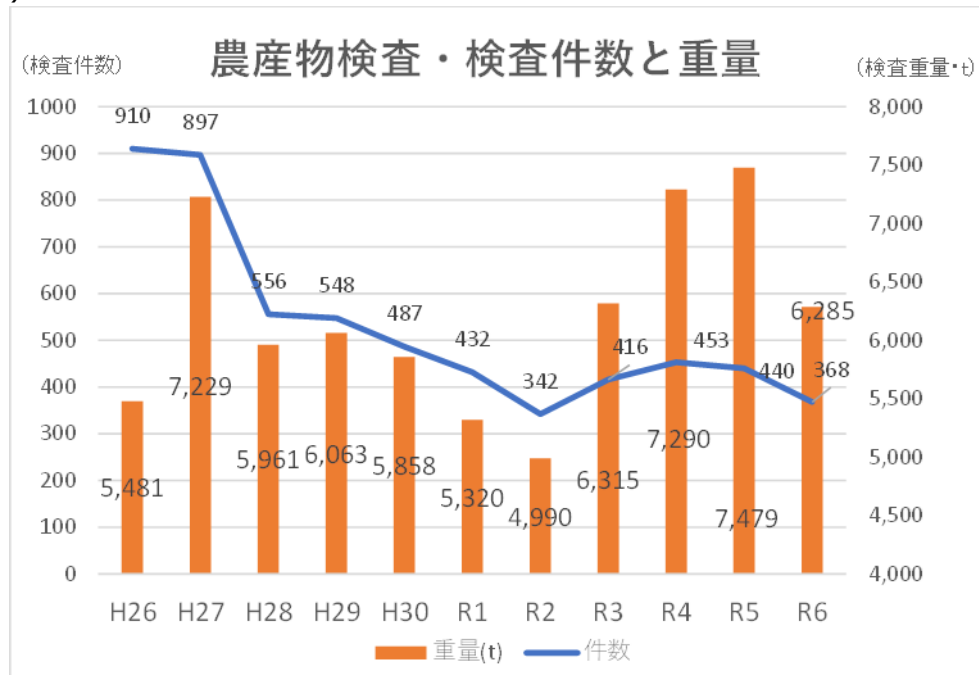
初年度以降、一件当たりの検査重量は一貫して増加を続けております。（図3）

（図1）



【 飼料用米をめぐる情勢について（農林水産省農産局）より 】

(図2)



(図3)



当協会としては、食料自給力の維持向上のため飼料米などの生産拡大を推進する国の方針に基づき、引き続き飼料米検査業務の支援を行っていく予定です。

日本養鶏協会は、平成26年度より登録検査機関として活動を開始。
 飼料米を利用する養鶏生産者自らが検査員となり自社使用となる飼料米の検査を行うため、日本養鶏協会が登録検査機関として国の認定を受け検査員の支援を行っている。
 現在、14県：38名の方が協会所属の農産物検査員として検査業務を実施。

【お問い合わせ】

業務第1部 Tel:03-3297-5515



冊子発刊のご紹介 ～完全食・たまごの健康パワー～

「マンガでわかる！完全食・たまごの健康パワー」

このたび「完全食・たまごの健康パワー」について冊子発刊のご案内がありましたので、会員の皆様へご紹介させていただきます。

身近な完全食（スーパーフード）たまごの知られざる真価を、楽しいストーリー漫画と解説で一般消費者にわかりやすく解説する冊子です。



- 農学博士 矢澤一良 / 監修
(矢澤先生は、一般社団法人 日本養鶏協会発行の「魅力あふれる安全安心の国産鶏卵」へ寄稿いただいた先生です。)
- 判型：A 5判（中綴じ）
- ページ数：24ページ
- 定価：本体400円（税別）

【お問い合わせ】

株式会社オリーブの木 担当：坂本
TEL：090-6470-5979
メール：saka@olivetree.co.jp

本冊子は当協会が発行するものではありませんので、必ず上記にお問合せください。

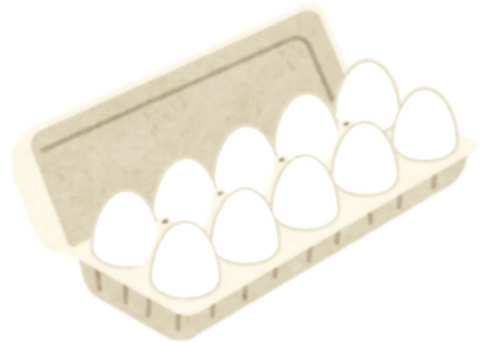
統計データ



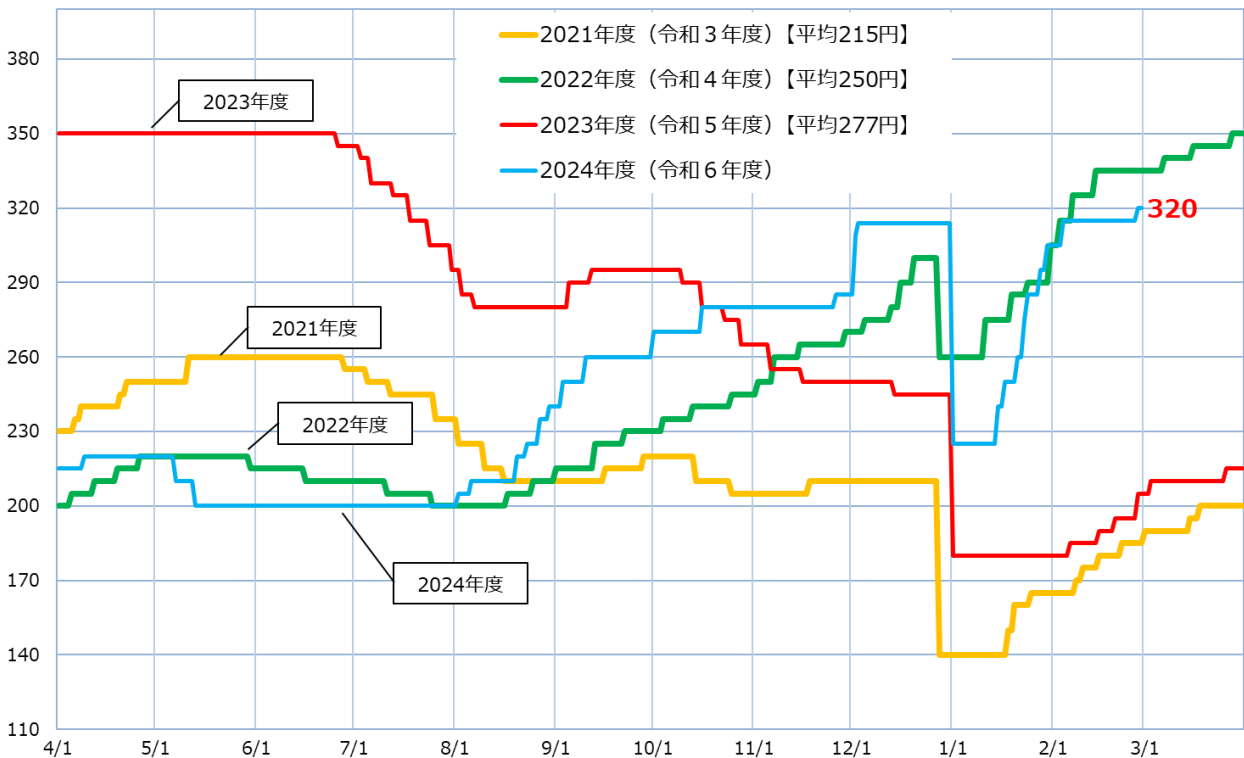
鶏卵相場動向 — 過去10年間の2月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成28年	209	233	194
平成29年	204	228	184
平成30年	189	218	164
令和元年	152	183	139
令和2年	185	212	174
令和3年	183	230	154
令和4年	175	205	159
令和5年	327	359	299
令和6年	190	229	174
令和7年	315	345	299
平均値	213	244	194

令和7年2月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値345円は、過去10年の平均値244円を101円上回り、安値299円は、過去10年の平均値194円を105円上回っています。



鶏卵相場推移 2021年度～2024年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は1月末の305円から価格が上がり2月末では320円まで上がりました。



鶏卵関係主要計数 —— 令和6年12月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比★	数量(g)	前年比	前年(円/kg)	本年(円/kg)
6年 1月	7,545	89.0%	456	102.3%	898	100.0%	280	180
2月	7,631	92.1%	453	106.9%	891	105.0%	327	190
3月	8,325	87.9%	464	97.4%	928	112.1%	343	211
4月	8,283	95.0%	478	108.2%	876	103.6%	350	219
5月	8,046	86.1%	477	102.2%	937	112.5%	350	204
6月	8,057	83.6%	439	97.9%	906	110.8%	349	200
7月	8,539	91.6%	450	105.4%	837	102.9%	320	200
8月	7,789	89.6%	434	99.2%	864	100.5%	282	217
9月	7,346	91.2%	426	98.9%	885	104.2%	292	256
10月	8,473	96.3%	484	105.0%	902	101.2%	283	275
11月	7,429	85.7%	471	99.9%	887	101.2%	254	281
12月	8,931	93.2%	510	100.4%	970	102.1%	247	290
1年間合計平均(%)	96,394	90.1%	5,542	102.0%	10,781	104.7%	306(平均)	227(平均)

- ・雛餌付羽数は、8,931千羽（前年比93.2%）と前年比6.8%減となりました。
- ・配合飼料出荷量は、510千トン（前年比100.4%）と前年比0.4%増となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、970グラム（前年比102.1%）と前年比2.1%増となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の43円高を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

協会活動報告



鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和3年度	1,840,695
令和4年度	1,794,699
令和5年度	1,731,712
令和6年度	1,824,301

② 標準取引価格

令和7年2月 308.91円/kg

③ 令和6年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 222円/kg

安定基準価格 202円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2025年3月7日

編集・発行責任者：石井 馨 (info@jpa.or.jp)